

90歳女性。生来健康。既往歴特になし。

今まで検診の受診は不規則であった。平成X年度〇〇市の肺癌検診で、直径約3cmの異常陰影を指摘され、精密検査の結果、左肺上葉扁平上皮癌と診断された。平成X年10月1日、A病院で左肺上葉切除術を施行された。術前、術中の評価により、転移は特に認められなかった。

術後、10月3日より、著明な呼吸苦が出現、胸部単純写真、胸部CT写真で肺炎を認め、抗生剤等を用いた治療を行ったが、次第に症状が悪化し、10月10日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	術後肺炎		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
	(イ) (ア)の原因				
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	Ⅱ	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	1無	部位及び主要所見		手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	2有	主要所見			
解剖	1無	2有			
死因の種類	1 病死及び自然死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		市 区 都 町村	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください					
手段及び状況					

死亡の原因	(ア) 直接死因	術後肺炎		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
	(イ) (ア)の原因	原発性左肺上葉扁平上皮癌			
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	Ⅰ			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	Ⅱ	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	1無	部位及び主要所見		手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	2有	左肺上葉切除術を施行。左肺上葉に扁平上皮癌があったが、転移なし。			
解剖	1無	2有			
死因の種類	1 病死及び自然死 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		市 区 都 町村	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください					
手段及び状況					

問題文

90歳女性。生来健康。既往歴特になし。

今まで検診の受診は不規則であった。平成X年度〇〇市の肺癌検診で、直径約3cmの異常陰影を指摘され、精密検査の結果、左肺上葉扁平上皮癌と診断された。平成X年10月1日、A病院で左肺上葉切除術を施行された。術前、術中の評価により、転移は特に認められなかった。術後、10月3日より、著明な呼吸苦が出現、胸部単純写真、胸部CT写真で肺炎を認め、抗生剤等を用いた治療を行ったが、次第に症状が悪化し、10月10日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は左肺上葉切除術後の術後肺炎と推察されます。

直接の死因は術後性肺炎ですが、その原因となった傷病名「原発性左肺上葉扁平上皮癌」をI欄(イ)に記載します。悪性新生物は原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。また、I欄、II欄の傷病名と関係がある手術を行っていますので、手術欄には手術を行った疾病と主要所見「転移なし」を記入します。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	術後肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	1 無	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	2 有	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死			
	2 外因死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 町 村	都 府 県
手段及び状況				

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	術後肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
	(イ) (ア)の原因	原発性左肺上葉扁平上皮癌		不詳
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	1 無	部位及び主要所見 左肺上葉切除術を施行。左肺上葉に扁平上皮癌があったが、転移なし。	手術年月日	昭和 X年10月1日
	2 有	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死			
	2 外因死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 町 村	都 府 県
手段及び状況				

正解

65歳男性。50歳時より近医で高血圧の治療歴あり。家庭血圧はやや高く150/90mmHg程度であった。

平成X年2月10日早朝、朝食もとらずに近所へ散歩に出かけた。なかなか帰宅しないため、家人が探したところ、家の玄関前で倒れているのを発見され、救急車で市内B病院に搬送された。搬送時、頭部CT検査で、脳幹出血を認めた。その後、ICUへ入院、人工呼吸器を装着するも、翌2月11日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	高血圧による脳幹出血	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	1日
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日
	手術 ① 2有			昭和 年 月 日
解剖	主要所見			
	解剖 ① 2有			
死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 }		
	外因死	6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	市 区 町 村	都 府 県
外因死の追加事項	手段及び状況			
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください			

死亡の原因	(ア) 直接死因	脳幹出血	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	1日
	(イ) (ア)の原因	高血圧		
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日
	手術 ① 2有			昭和 年 月 日
解剖	主要所見			
	解剖 ① 2有			
死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 }		
	外因死	6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	市 区 町 村	都 府 県
外因死の追加事項	手段及び状況			
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください			

問題文

65歳男性。50歳時より近医で高血圧の治療歴あり。家庭血圧はやや高く150/90mmHg程度であった。

平成X年2月10日早朝、朝食もとらずに近所へ散歩に出かけた。なかなか帰宅しないため、家人が探したところ、家の玄関前で倒れているのを発見され、救急車で市内B病院に搬送された。搬送時、頭部CT検査で、脳幹出血を認めた。その後、ICUへ入院、人工呼吸器を装着するも、翌2月11日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は高血圧による脳幹出血と推察されます。

直接の死因は脳幹出血で、その原因となった傷病名が「高血圧」です。傷病名は簡潔に記入し、文章での記入ではなく、I欄に因果関係がわかるように(ア)に脳幹出血、(イ)に高血圧を記入します。また、「脳出血」ではなく、部位がわかるものは「脳幹出血」のように部位を記入します。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	高血圧による脳幹出血		免病(免症)又は受傷から死亡までの期間	1日
	(イ) (ア)の原因				
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
手術	手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	2有	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墮、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の死因			
	2 外因死	不慮の外因死 その他及び不詳の外因死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()			

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	脳幹出血		免病(免症)又は受傷から死亡までの期間	1日
	(イ) (ア)の原因	高血圧			
	(ウ) (イ)の原因				
	(エ) (ウ)の原因				
手術	手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	2有	主要所見		
死因の種類	1 病死及び自然死	2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墮、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の死因			
	2 外因死	不慮の外因死 その他及び不詳の外因死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()			

正解

80歳男性。60歳時より近医で2型糖尿病の治療歴(インスリン使用)あり。HbA1cは9%程度と血糖コントロールは不良であった。

平成X年4月10日頃より感冒様症状があり、4月11日に近医受診、胸部X線写真で右下葉に肺炎像を認め、市内のC病院へ入院となった。入院後クレブシエラ肺炎と診断され、抗生剤等の治療を開始した。症状はなかなか改善せず、5月10日ごろより、膿胸の所見を認め、抗生剤の変更、ドレナージ等も行った。5月15日午前10時頃より突然ショック状態となり、同日午後0時15分死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	2時間15分		
	(イ) (ア)の原因	膿胸		5日		
	(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎		1か月		
	(エ) (ウ)の原因					
	Ⅱ	直接には死因に関与しないが1療の療養経過に影響を及ぼした疾病等		2型糖尿病	20年	
手術	①	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和	年 月 日
	②	無	主要所見			
解剖	①	無	2有	主要所見		
	②	有				
死因の種類	①	病死及び自然死				
	②	外因死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火場による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和	年 月 日	午前・午後	時 分	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()				市 区 町 村
手段及び状況	手段及び状況					
	手段及び状況					

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約半日		
	(イ) (ア)の原因	膿胸		5日		
	(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎		1か月		
	(エ) (ウ)の原因					
	Ⅱ	直接には死因に関与しないが1療の療養経過に影響を及ぼした疾病等		2型糖尿病		
手術	①	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和	年 月 日
	②	無	主要所見			
解剖	①	無	2有	主要所見		
	②	有				
死因の種類	①	病死及び自然死				
	②	外因死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火場による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和	年 月 日	午前・午後	時 分	都道府県
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()				市 区 町 村
手段及び状況	手段及び状況					
	手段及び状況					

80歳男性。60歳時より近医で2型糖尿病の治療歴(インスリン使用)あり。HbA1cは9%程度と血糖コントロールは不良であった。

平成X年4月10日頃より感冒様症状があり、4月11日に近医受診、胸部X線写真で右下葉に肺炎像を認め、市内のC病院へ入院となった。入院後クレブシエラ肺炎と診断され、抗生剤等の治療を開始した。症状はなかなか改善せず、5月10日ごろより、膿胸の所見を認め、抗生剤の変更、ドレナージ等も行った。5月15日午前10時頃より突然ショック状態となり、同日午後0時15分死亡した。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因はクレブシエラ肺炎から膿胸、肺血症性ショックになったものと推察されます。最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番に記入します。「糖尿病」は直接死因には関係していませんが、I欄の傷病等の経過に影響があると思われるのでII欄に記入します。また、発病(発症)又は受傷から死亡までの期間については、年、月、日等の単位で記入します。ただし、1日未満の場合は、時間、分の単位で記入します。発症日付を記入しないようにしてください。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	2時間15分
	(イ) (ア)の原因	膿胸		5日
	(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	1か月
	(エ) (ウ)の原因			
	II		2型糖尿病	
手術	部位及び主要所見	① 2有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	主要所見	① 2有		
死因の種類	① 病死及び自然死			
	② 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

正解

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約半日
	(イ) (ア)の原因	膿胸		5日
	(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	1か月
	(エ) (ウ)の原因			
	II			
手術	部位及び主要所見	① 2有	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	主要所見	① 2有		
死因の種類	① 病死及び自然死			
	② 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

60歳女性。生来健康。既往歴特になし。

平成X年5月10日頃より感冒様症状があり、5月15日に近医受診、胸部X線写真で右上葉に異常陰影を認め、市内D病院へ入院となった。精密検査の結果、肺小細胞癌と診断され、化学療法を開始した。外来通院で数クール of 化学療法を行い、一旦改善傾向を認めたものの、平成X+1年(翌年)2月頃より、陰影の増大及び肺内転移、脳転移を認め、呼吸状態が悪化したため、再び入院となった。次第に呼吸状態が悪化し、5月13日に死亡した。

また、同日病理解剖を行い、右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍をはじめ、肺内多発病巣を認めた。頭部解剖は行わなかった。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	原発性右上葉肺小細胞癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	1年
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	② 1無	主要所見 右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍があり、その他肺内に多発病変が認められる。		
死因の種類	① 病死及び自然死	外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		
	手段及び状況			

死亡の原因	(ア) 直接死因	呼吸不全	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約3か月
	(イ) (ア)の原因	原発性右上葉肺小細胞癌		1年
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	② 1無	主要所見		
死因の種類	① 病死及び自然死	外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		
	手段及び状況			

問題文

60歳女性。生来健康。既往歴特になし。

平成X年5月10日頃より感冒様症状があり、5月15日に近医受診、胸部X線写真で右上葉に異常陰影を認め、市内D病院へ入院となった。精密検査の結果、肺小細胞癌と診断され、化学療法を開始した。外来通院で数ケールの化学療法を行い、一旦改善傾向を認めたものの、平成X+1年(翌年)2月頃より、陰影の増大及び肺内転移、脳転移を認め、呼吸状態が悪化したため、再び入院となった。次第に呼吸状態が悪化し、5月13日に死亡した。

また、同日病理解剖を行い、右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍をはじめ、肺内多発病巣を認めた。頭部解剖は行わなかった。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は原発性右上葉肺小細胞癌と推察されます。疾病の終末期の状態としての心不全、呼吸不全の記入を控えます。したがって、今回の場合「原発性右上葉肺小細胞癌」をI欄(ア)に記入します。解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、I欄、II欄の傷病名等に関連のある解剖の**主要所見**(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

選択肢

1	死亡の原因	(ア) 直接死因	原発性右上葉肺小細胞癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	1年
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
14	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の最善で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の最善で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 昭和 年 月 日
		解剖	① 1無	主要所見 右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍があり、その他肺内に多発病変が認められる。	
15	死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死		
		外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
16	外因死の追加事項	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建設現場 3道路 4その他()	手段及び状況	
		◆法医又は確定情報の場合でも書いてください			

正解

2	死亡の原因	(ア) 直接死因	呼吸不全	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約3か月
		(イ) (ア)の原因	原発性右上葉肺小細胞癌		
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
14	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の最善で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の最善で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 昭和 年 月 日
		解剖	① 1無	主要所見	
15	死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死		
		外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
16	外因死の追加事項	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建設現場 3道路 4その他()	手段及び状況	
		◆法医又は確定情報の場合でも書いてください			

72歳男性。生来健康。既往歴特になし。

今まで、肺癌検診をほとんど受診したことがなかった。平成X年6月、E市の肺癌検診で肺異常陰影を指摘され、平成X年9月、F病院を受診した。精密検査の結果、左肺下葉に径8cmの巨大異常陰影を認め、気管支鏡検査の結果、肺扁平上皮癌と診断されるとともに、左副腎に転移巣を思われる径5cmの腫瘍を認めた。

入院後化学療法を開始したが、平成X+1年12月10日8時、突然、吐血、下血があり、ショック状態となり同9時に死亡した。

解剖の結果、左肺下葉に径10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤したことによる出血であったことが判明した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	出血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	1時間
	(イ) (ア)の原因	副腎腫瘍		不詳
	(ウ) (イ)の原因	肺扁平上皮癌		不詳
	(エ) (ウ)の原因			
I	◆1欄目欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください			
	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください			
II	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください			
	◆ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください			
手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
解剖	1無	主要所見		
死因の種類	① 病死及び自然死 ② 外因死 { 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 } ③ その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } ④ 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	ろ	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください				
手段及び状況				

死亡の原因	(ア) 直接死因	出血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	1時間
	(イ) (ア)の原因	転移性副腎腫瘍		不詳
	(ウ) (イ)の原因	原発性左下葉肺扁平上皮癌		不詳
	(エ) (ウ)の原因			
I	◆1欄目欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください			
	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください			
II	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください			
	◆ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください			
手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
解剖	1無	主要所見		
左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。				
死因の種類	① 病死及び自然死 ② 外因死 { 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 } ③ その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } ④ 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	ろ	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください				
手段及び状況				

問題文

72歳男性。生来健康。既往歴特になし。

今まで、肺癌検診をほとんど受診したことがなかった。平成X年6月、E市の肺癌検診で肺異常陰影を指摘され、平成X年9月、F病院を受診した。精密検査の結果、左肺下葉に径8cmの巨大異常陰影を認め、気管支鏡検査の結果、肺扁平上皮癌と診断されるとともに、左副腎に転移巣を思われる径5cmの腫瘍を認めた。

入院後化学療法を開始したが、平成X+1年12月10日8時、突然、吐血、下血があり、ショック状態となり同9時に死亡した。

解剖の結果、左肺下葉に径10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤したことによる出血であったことが判明した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は原発性左肺下葉扁平上皮癌が副腎転移を起こし、胃への直接浸潤から出血、出血性ショックをきたし死亡したと推察されます。

直接の死亡となった傷病名を(ア)欄に、(ア)欄の原因となる傷病名があれば(イ)欄に、(イ)欄の原因となる傷病名等があれば(ウ)欄に記入します。悪性新生物は、原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。したがって、I欄(ウ)は、「原発性左肺下葉扁平上皮癌」を記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、I欄、II欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

選択肢

1

死亡の原因 ◆1欄目欄ともに病患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順で書いてください。	施設の名稱	(ア)直接死因	出血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例：1年3か月、5時間20分)	1時間
		(イ)原因	副腎腫瘍		不詳
		(ウ)原因	肺扁平上皮癌		不詳
		(エ)原因			
手 術 解 剖	手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	1無	主要所見		
死因の種類		1 病死及び自然死 2 外因死 3 不詳の死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因		
外因死の追加事項		傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道 府県 市 区 郡 町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()		
		手段及び状況			

2

死亡の原因 ◆1欄目欄ともに病患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順で書いてください。	施設の名稱	(ア)直接死因	出血性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例：1年3か月、5時間20分)	1時間
		(イ)原因	転移性副腎腫瘍		不詳
		(ウ)原因	原発性左下葉肺扁平上皮癌		不詳
		(エ)原因			
手 術 解 剖	手術	2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	1無	主要所見 左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、 副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。		
死因の種類		1 病死及び自然死 2 外因死 3 不詳の死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因		
外因死の追加事項		傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道 府県 市 区 郡 町村
		傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び 建築現場 3道路 4その他()		
		手段及び状況			

正解

問題文

72歳男性。生来健康。既往歴特になし。

今まで、肺癌検診をほとんど受診したことがなかった。平成X年6月、E市の肺癌検診で肺異常陰影を指摘され、平成X年9月、F病院を受診した。精密検査の結果、左肺下葉に径8cmの巨大異常陰影を認め、気管支鏡検査の結果、肺扁平上皮癌と診断されるとともに、左副腎に転移巣を思われる径5cmの腫瘍を認めた。

入院後化学療法を開始したが、平成X+1年12月10日8時、突然、吐血、下血があり、ショック状態となり同9時に死亡した。

解剖の結果、左肺下葉に径10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤したことによる出血であったことが判明した。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は原発性左肺下葉扁平上皮癌が副腎転移を起こし、胃への直接浸潤から出血、出血性ショックをきたし死亡したと推察されます。

直接の死亡となった傷病名を(ア)欄に、(ア)欄の原因となる傷病名があれば(イ)欄に、(イ)欄の原因となる傷病名等があれば(ウ)欄に記入します。悪性新生物は、原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。したがって、I欄(ウ)は、「原発性左肺下葉扁平上皮癌」を記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、I欄、II欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	出血性ショック	1時間
	(イ) (ア)の原因	副腎腫瘍	不詳
	(ウ) (イ)の原因	肺扁平上皮癌	不詳
	(エ) (ウ)の原因		
手続	② 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 昭和 年 月 日
	① 1無	① 主要所見	
死因の種類	① 病死及び自然死	2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の死因 12 不詳の死	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市 区 町村 郡 府県
解剖	① 1無	① 主要所見 左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。	

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	出血性ショック	1時間
	(イ) (ア)の原因	転移性副腎腫瘍	不詳
	(ウ) (イ)の原因	原発性左下葉肺扁平上皮癌	不詳
	(エ) (ウ)の原因		
手続	② 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 昭和 年 月 日
	① 1無	① 主要所見 左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。	
死因の種類	① 病死及び自然死	2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 6 窒息 7 中毒 8 その他 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の死因 12 不詳の死	
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市 区 町村 郡 府県
解剖	① 1無	① 主要所見 左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。	

正解

80歳女性。もともと頸椎症が存在したが、76歳時に転倒して中心性頸髄損傷をきたし、不全麻痺の状態であった。

8月7日、午前9時10分頃自宅室内で転倒し、それまで何とか自己摂取していた食事がとれなくなった。転倒当日の近医での頭部CT検査では、出血はなかった。

4日後に意識レベルが低下し、当院に緊急搬送。低Na血症と誤嚥性肺炎を認め入院した。入院後の頸髄MRIで脊髄損傷の増悪があり、誤嚥性肺炎は抗生剤投与で軽快したが、経口摂取は改善せず、他の栄養手段を希望されなかったため、入院後3か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

老衰は高齢者の死因として挙げやすい病名である。複数の疾患を併せ持つ高齢者では、死因を特定できないことも多い。また在宅で特に誘因もなく亡くなった際には、「老衰」としか記載できない場合もある。しかし、病院に一定期間入院し、死因が特定できるにも関わらず、老衰という診断を付けるのは一考を要する。地域によっては「老衰」という診断は天寿を全うできたということで、家族から喜ばれるので意図的につけることもあるという。

死因統計の観点からは「老衰」の診断名には高齢者で他の死因がない場合にのみ用いる。

転倒の関与については主治医の判断によるが、転倒が死亡に直接関与したものではないと判断した場合は、「Ⅱ直接には死因に関与しないが欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等」に頸髄損傷を記載することもある。

不慮の転倒の場合は死因の種類は「3.転倒・転落」を選択し、外因死の追加事項を記載する。

選択肢

正解

1	<p>死亡の原因</p> <p>◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆2欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆3欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に両方を医学的因果関係の順番で書いてください</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">(ア) 直接死因</td> <td style="width: 40%; text-align: center; font-weight: bold;">摂食障害</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">約3か月</td> </tr> <tr> <td>(イ) (ア)の原因</td> <td style="text-align: center;">頸髄損傷</td> <td style="font-size: 8px;">発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</td> <td style="text-align: center;">約3か月</td> </tr> <tr> <td>(ウ) (イ)の原因</td> <td></td> <td style="font-size: 8px;">◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(エ) (ウ)の原因</td> <td></td> <td>直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</td> <td></td> </tr> </table> <p>手術 ①無 2有 部位及び主要所見 手術年月日 平成 昭和 年 月 日</p> <p>解剖 ①無 2有 主要所見</p>	(ア) 直接死因	摂食障害		約3か月	(イ) (ア)の原因	頸髄損傷	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約3か月	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)		(エ) (ウ)の原因		直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		<p>疾病の種類</p> <p>1病死及び自然死</p> <p>2 交通事故 ③ 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害</p> <p>6 窒息 7 中毒 8 その他</p> <p>9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死</p> <p>12 不詳の死</p>	<p>外因死の追加事項</p> <p>傷害が発生したとき 平成 昭和 X年 8月 7日 午前 午後 9時 10分</p> <p>傷害が発生したところの種類 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()</p> <p>傷害が発生したところ 市 区 町 村</p> <p>◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手続及び状況</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">自宅室内で転倒したという。</p>
(ア) 直接死因	摂食障害		約3か月																	
(イ) (ア)の原因	頸髄損傷	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約3か月																	
(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)																		
(エ) (ウ)の原因		直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等																		

2	<p>死亡の原因</p> <p>◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆2欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆3欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に両方を医学的因果関係の順番で書いてください</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">(ア) 直接死因</td> <td style="width: 40%; text-align: center; font-weight: bold;">老衰</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1日</td> </tr> <tr> <td>(イ) (ア)の原因</td> <td></td> <td style="font-size: 8px;">発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(ウ) (イ)の原因</td> <td></td> <td style="font-size: 8px;">◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(エ) (ウ)の原因</td> <td style="text-align: center; font-weight: bold;">廃用症候群</td> <td>直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</td> <td style="text-align: center;">数か月</td> </tr> </table> <p>手術 ①無 2有 部位及び主要所見 手術年月日 平成 昭和 年 月 日</p> <p>解剖 ①無 2有 主要所見</p>	(ア) 直接死因	老衰		1日	(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)		(エ) (ウ)の原因	廃用症候群	直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	数か月	<p>疾病の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害</p> <p>6 窒息 7 中毒 8 その他</p> <p>9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死</p> <p>12 不詳の死</p>	<p>外因死の追加事項</p> <p>傷害が発生したとき 平成 昭和 年 月 日 午前 午後 時 分</p> <p>傷害が発生したところの種類 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()</p> <p>傷害が発生したところ 市 区 町 村</p> <p>◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手続及び状況</p>
(ア) 直接死因	老衰		1日																	
(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間																		
(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日本調の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)																		
(エ) (ウ)の原因	廃用症候群	直前には死因に關与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	数か月																	

88

(14)	死亡の原因 ◆1欄目欄と もに疾患の終末 期の状態として の心不全、呼吸 不全等は書かな いでください ◆1欄では、最 も死亡に影響を 与えた無病名を 医学的因果関係 の順で書いて ください ◆1欄の無病名 の記載は各欄一 つにしてください ーただし、欄が 不足する場合は (エ)欄に残り を医学的因果関 係の順で書いて ください	施設の名 称					
		(ア) 直接死因	摂食障害		発病(発症) 又は受傷か ら死亡まで の期間	約3か月	
		(イ) (ア)の原因					
		(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日 等の単位で書 いてください ーただし、1 日未満の場合 は、時、分等 の単位で書い てください (例)1年 3 か月、5時間 20分)		
		(エ) (ウ)の原因					
		Ⅱ 脊髄には死因に關 係しないが1欄の 無病名に影響を 及ぼした無病名等		頸髄損傷		約3か月	
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和	年 月 日	
	解剖	① 2有	主要所見				
(15)	死因の種類	① 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	市区	町村
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		都	区	町村
		◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況					

正解

74歳女性。X年7月に熱中症で他院に入院時した際に血小板減少(6.1万)を指摘され、9月に血液内科のある総合病院を紹介受診し、骨髄異形成症候群と診断された。ご本人と相談の上、10月から入院して化学療法が開始されたが、汎血球減少が著明で本人の苦痛も強いため1クールで中止した。10月下旬に転倒し、前額部に挫創がみられた。意識障害や特記すべき神経学的所見なし。11月に入り発熱が反復し、11月10日から言葉がでにくいとの訴えあり、頭部CTで左前頭頭頂部に硬膜下血腫。四肢麻痺なし。脳外科にコンサルテーションしたが、緊急手術の適応はないと判断された。その後炎症反応の悪化、播種性血管内凝固の状態となり、血圧低下、意識レベルが低下し11月14日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
	(イ) (ア)の原因	敗血症		14日
	(ウ) (イ)の原因	骨髄異型性症候群	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分)	4か月
	(エ) (ウ)の原因			
	Ⅱ	直接には死因に関与しないがⅠ欄の疾病経過に影響を及ぼした疾病名等	急性硬膜下血腫	
手術	部位及び主要所見	2有	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	主要所見	2有		
解剖	部位及び主要所見	2有		
	主要所見	2有		
死因の種類	死及び自然死	<input checked="" type="radio"/> 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 傷害が発生したところ 市 区 町 村 手段及び状況	都道府県	

死亡の原因	(ア) 直接死因	急性硬膜下血腫	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	4日
	(イ) (ア)の原因	骨髄異形成症候群		4か月
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例)1年3か月5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
	Ⅱ	直接には死因に関与しないがⅠ欄の疾病経過に影響を及ぼした疾病名等		
手術	部位及び主要所見	1無 2有	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	主要所見	1無 2有		
解剖	部位及び主要所見	1無 2有		
	主要所見	1無 2有		
死因の種類	死及び自然死	<input checked="" type="radio"/> 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 傷害が発生したところ 市 区 町 村 手段及び状況	都道府県	

74歳女性。X年7月に熱中症で他院に入院時した際に血小板減少(6.1万)を指摘され、9月に血液内科のある総合病院を紹介受診し、骨髄異形成症候群と診断された。ご本人と相談の上、10月から入院して化学療法が開始されたが、汎血球減少が著明で本人の苦痛も強いため1クールで中止した。10月下旬に転倒し、前額部に挫創がみられた。意識障害や特記すべき神経学的所見なし。11月に入り発熱が反復し、11月10日から言葉がでにくいとの訴えあり、頭部CTで左前頭頭頂部に硬膜下血腫。四肢麻痺なし。脳外科にコンサルテーションしたが、緊急手術の適応はないと判断された。その後炎症反応の悪化、播種性血管内凝固の状態となり、血圧低下、意識レベルが低下し11月14日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

終末期に複数の病態が錯綜することはしばしばみられる。本例では確かに硬膜下血腫はみられるもののその程度は軽く、意識障害の原因や直接死因とは考えにくい。むしろ汎血球減少の結果みこされた、敗血症、播種性血管内凝固により微小血栓がおこり、あわせて敗血症性ショックに至った可能性が高いと考えられることから、硬膜下血腫は、I欄の傷病経過に影響を与えたものと評価した。

選択肢

正解

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
	(イ) (ア)の原因	敗血症		14日
	(ウ) (イ)の原因	骨髄異形成症候群		4か月
	(エ) (ウ)の原因			
	(オ) (エ)の原因	急性硬膜下血腫		4日
手続	部位及び主要所見	2有	手術年月日	平成 年 月 日
	主要所見	2有		
死因の種類	死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 傷害が発生したところ 市区町村 手段及び状況		

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	急性硬膜下血腫	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	4日
	(イ) (ア)の原因	骨髄異形成症候群		4か月
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
	(オ) (エ)の原因			
手続	部位及び主要所見	2有	手術年月日	平成 年 月 日
	主要所見	2有		
死因の種類	死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墜、火災及び火傷による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 傷害が発生したところ 市区町村 手段及び状況		

